

[038] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10232>

出版情報：語文研究. 38, 1975-01-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

◇ 学会 彙報

▼講義題目 昭和49年度第1学期

(大学院)	国語学特研	国語学史	春日	教授
(大学院)	全	演習 三宝絵詞	春日	教授
(大学院)	全	特講 活用語の研究	春日	教授
(学部)	全	演習 万葉集巻九	春日	教授
(学部)	全	特研 アクセント史	春日	教授
(大学院)	全	特研 国語学の諸問題	奥村助教	教授
(大学院)	全	特講 倒叙国語史	奥村助教	教授
(学部)	全	演習 近世語(心中天の網島)	奥村助教	教授
(大学院)	国文学特研	平安朝文学史の諸問題	今井	教授
(大学院)	全	演習 為信集	今井	教授
(学部)	全	特講 王朝和歌論	今井	教授
(学部)	全	演習 源氏物語薄雲	今井	教授
(大学院)	全	特研 近世文人伝記研究	中野助教	教授
(大学院)	全	演習 談林俳諧	中野助教	教授
(学部)	全	特講 近世文学の背景	中野助教	教授
(学部)	全	演習 戯作	中野助教	教授
(大学院)	全	特研 近代文学研究の方法	重松	教授
(学部)	全	演習 近代文学作品研究	重松	教授
(大学院)	全	演習 近代作家の研究	重松	教授
(学部)	全	特講 中世連歌連歌史の諸問題	藤原	講師

北九大教授 藤原 講師

▼昭和47年度修士論文題目(九月)

楊守敬旧藏本将門記仮名黙の国語学的研究

安田 博士

▼昭和48年度卒業論文題目

学部

萩原朔太郎論

村山 良一

伊東静雄

赤塚 正幸

明治大正の女流文学についての一視点

貞刈 信子

山上憶良

龍 佳花

筑前方言のアクセントについて

稲川 順一

言道翁書簡の研究

中原久仁子

近世後期上方語の研究

矢野 準

源氏物語論

湯村文三子

柏屋方言に関する一考察

吉田 正孝

修士

真名本考

南里みち子

古本節用集の国語学的研究

柏原 卓

東国系浄土宗抄物の研究

田籠 博

(九月)

平安朝末期歌壇史研究―歌林苑を中心に―

渡辺真理子

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和49年6月9日

研究発表題目

筑前方言のアクセント

稲川 順一

近世京坂語と洒落本

矢野 準

「梅曆」以前の為永春水について

白石 良夫

近世紀行文の「笑い」

トラカ列島（中之島・平島）のアクセント

頼盛の都落ちをめぐるつて

斎宮女御集の成立年次について

平治物語の物語構成と序文

平曲の旋律とことば

▼卒業論文相談会 昭和四十九年五月十八日 於国文演習室

▼第二四回西日本国語国文学会

昭和四十九年九月二十一・二十二日

於佐賀龍谷谷期大学

研究発表（本会々員関係）

蕉門中興運動の下限

あゆひ抄と助字详解

「名字」統貂

公開講演

九州方言と断定法

▼故福田良輔博士の一周忌につき、福田家より金三万円也の御寄付を戴きました。

▼会員消息

本会顧問穴山孝道先生は、昭和四十九年九月十九日に御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

板坂 耀子

田尻 英三

橋口 晋作

西丸 妙子

笠 栄治

奥村 三雄

於国文演習室

受贈図書 昭和四八年一月～十二月

方言研究叢書Ⅰ（藤原与一）

言語地理学の方法（柴田武）

遠州方言のアクセント（寺田泰政）

男鹿寒風山麓方言民俗誌一巻二（吉田三郎）

大阪方言辞典（牧村史陽）

ナゴヤベンじてん（荒川惣兵衛）

豊橋地方の方言（吉川利明）

越中の方言（大田栄太郎）

信州の方言（馬瀬良雄）

方言調査研究資料目録（大田栄太郎）

茂山乙本古今和歌集

近世文学資料類従・仮名草子編

諸国買物調方記

狐の詩情（田中克己訳）

酒竹文庫連歌俳諧書集成収録書目録

韓日漢字音韻統計

韓日語彙比較

漢字韓日音相関性

「ヒイデスの導師」の語彙

能狂言

高関堂日記礼状抄

日本紀略人名索引

外人百人一首

萩原朔太郎研究

棋垣 実

東京ペン字教育会
中村 幸彦

養徳社

東大図書館
明柱 完

上智大文学会
笹野 堅

鹿島研究所出版会
梅光女学院大学

松野 敏男
石川 忠男

従来の寛弘六年説が否定され、首欠説とあいまって、寛弘五年五月二十三日説が有力といえよう。(萩谷氏は五月二十二日、稲賀氏は五月五日説をとられる)

(13)「日記歌」については、小沢正夫氏の「紫式部日記考」(『国語と国文学』昭和十一年十一月、日本文学研究資料叢書「源氏物語」二に所収)における「最初から異本紫式部集の附録として編まれたとも考へられるのである。即ち紫式部の家の集を編纂しようとした後人が、異本式部集と式部日記とを手にして、異本式部集に漏れてゐる日記の歌を『集』の巻尾に増補したのではないだろうか」とする説が、その後、池田龜鑑氏「紫式部日記歌と家集について」(『学苑』五十三号、昭和二十八年)の支持を得て、現在有力となっている。

(14)この歌以外に、寛弘五年四月と五月の三十講時の詠五首が「日記歌」にありながら、現行日記にはみえないが、これについては日記首欠とする説に従う。

愛贈雜誌(昭和四九年一月と六月)

- 文化と言語(札幌大) 6 卷1 / 札幌大学教養部紀要 5 / 人文論究(函館人文学会) 34 / 藤女子大学国文学雑誌 15 / 語学文学(北海道教育大) 12 / 国語国文学研究(北海道大) 51 / 学園論集(北海学園大) 24 / 国学研究(東北大) 13 / 文化(東北大) 37 卷4 / 文芸研究(東北大) 75 / 文経論叢(弘前大) 9 卷1 / 日本文学ノート(宮城学院女子大) 9 / 宮城教育大学国語国文 5 / 国語と国文学(東京大) 51 卷1 / 7 / 実践国文学 5 / 論究日本文学(立命館大) 37 / 立命館文学 331 / 342 / 学芸国語国文学(東京学芸大) 9 / 国語国文学会誌(学習院大) 17 / 学習院大学文学部研究年報 20 / 東京女子大学日本文学 40 41 / 人文学報(都立大) 96 / 日本文学研究(大東文化大) 13 / 清泉女子大学紀要 21 / 言語文化(橋大) 10 / 一橋論叢 70 卷5 / 71 卷5 / 国文学研究(早稲田大) 52 53 / 文芸と批評(同人舎) 4 卷2 / 並人の里(同人舎) 9 / 演劇学(早稲田大) 15 / 国学院雑誌 74 卷11 / 75 卷3 / 国学院大学日本文化研究所紀要 33 / 国学院大学紀要 12 / 国学院大学文学研究科論集 1 / 語文(日本大学) 39 / 研究紀要(日大人文科学研究所) 16 / 上智大学国文学論集 7 / 国語国文論集(安田女子大) 3 4 / 駒沢国文 10 11 / 文芸論叢(立正女子短大) 10 / 国文白百合 5 / 成蹊大学文学部紀要 9 / 国文(お茶の水女子大) 40 / 文芸研究(明治大) 30 31 / 人文科学研究所年報(明治大) 14 / 紀要(中央大文学部) 33 / 人文研究(神奈川大) 55 / 57 / 横浜市立大論叢 24 卷1 / 3 / 東横国文学(東横学園女子短大) 6

若い世代に、共通語アクセントの影響がかなり見られた。筑前式アクセントには、一・二・三類の間に区別が無いが、共通語アクセントには一類対二・三類の区別があるため、若い人に混乱が見られるようになってきている。二・三類名詞は同じ○●▽型であるが、一類は共通語では○●▽型、筑前式では○●▽型であるため、筑前の若い人は、一類語はもとより、二・三類語まで○●▽型に発音する「誤れる回帰」をおこしている。しかし、これはまだラングとしての定着はおこしていずパロールのな段階にある。

最後に、被調査者の移転歴は、言語形成期をはずれていたためか、全く問題にならなかった。

注1 この類別については国語学辞典94頁を参照。

注2 この一・二・三類対四・五類の対立を持つ所は、ほかに山梨県奈良田、

石川県大聖寺(この二箇所は学習院大学・国語国文学會誌・第6号・徳川宗

賢氏・日本諸方言アクセントの系譜(試論による)、それに越前今庄にある。

注3 三類の貝、靴は第二音節に狭母音を有するが、この二語は、割合からいけば無視できる。

注4 豊前式アクセントは、遠賀郡芦屋(筑前式アクセントとの境界に近い)

での調査結果による。東京式アクセントは三省堂の金田一春彦編明解アクセント辞典、平山輝男氏編全国アクセント辞典によった。

注5 若い世代とは、二十歳代の人であって、三十代の人には影響はそれ程度著者ではない。また奥村三雄氏に提出されたレポート(福岡教育大三年女性Y・A氏)によると田川郡出身の大学生の間にも誤れる回帰が見られるという。

受贈雑誌②

- ／野州国文学(国学院大学栃木短大) 12 13／鶴見大学紀要11／国文鶴見9／高崎経済大学論集16巻3 4／相模女子大学紀要37／相模国文1／文献ジャーナル(富士短大) 12巻12 13巻5／国立国語研究所論集(ことばの研究)4／金沢文庫研究19巻9 20巻5／国文学論集山梨大11 12／国文学研究資料館報2／静岡女子大学国文研究7／研究紀要(静岡女子大) 7／人文論集(静岡大)24／名古屋大学国語国文学34／名古屋大学文学部研究論集21／愛知県立大学文学部論集24／説林(愛知県立大)22／国語国文学報(愛知教育大) 26／東海学園国語国文6／岐阜大学国語国文学10／岐阜大学研究報告22／皇学館論叢6巻4 7巻1／女子大国文(京都女子大)71 72／国文学(関西大)50／人文論究(関西学院大) 23巻2 4／龍谷大学論集403／文芸論叢(大谷大)2／大阪松蔭女子大学論集11／樟蔭国文学11／文林(樟蔭女学院大) 8／大阪市立大学文学部紀要人文研究25巻7分冊／国語国文(京都市大)42巻12 43巻4／青踏女子短期大学紀要2／同志社国文学9／人文科学(同志社大)2巻2／待兼山論叢(大阪大)7／女子大文学国文篇(大阪女子大)25／山辺道(天理大)18／梅花女子大学文学部紀要10／植生野国文学(四天王寺女子大)4／武庫川国文6／大阪府立大学紀要21／平安博物館紀要5／親和国文8／国文学研究ノート(神戸大)3／神戸外大論叢24巻1 6／金沢大学教育学部紀要22／金沢大学教養部論集11／岡大国文論稿2／島大国文3／方言研究年報(広島大)16／田唄研究(広島大)15

定にとどまらず、広韻索引の性格をもち、日本漢字音研究上の必須の基礎資料になっているのである。

以上、本書の内容を簡単に紹介してきたのだが、研究編の紹介など粗雑に扱った難をまぬがれえず、誤りもおかしているのではないかとおそれている。著者の御寛恕をお願いする次第である。

(昭和四十八年六月 風間書房刊 一八、〇〇〇円)

受贈雑誌③

- ／国語国文学誌(広島女学院大) 3／愛媛国文と教育(愛媛大) 5／愛媛国文研究(愛媛大) 23／愛媛大学法文学部論集 6／高知大国文 4／日本文学研究(高知) 11／文芸と思想(福岡女子大) 38／西南文学(西南学院大) 1巻1／会誌語学と文学(九州女子大) 4／国語研究(九州大谷下2)／国語の研究(大分大) 8／別府大学国語国文学 15／国文学研究(梅光女学院大) 9／国語国文学研究(熊本大) 9／国語国文学部紀要 1巻1／近代文学考 2／国語学 94 369／白路 29巻1 6／文学史研究 2／海事史研究 21／肇国 365 369／訓点語と訓点資料 54／万葉權木 1／藤風文芸 6／日本学術会議月報 14巻11 15巻4／万葉 83／潮流 4 9／近世文芸資料と考証 8／近世初期文芸 3／九州文化史研究所紀要(九州大) 19／文学論輯(九州大) 21／文学研究(九州大) 71